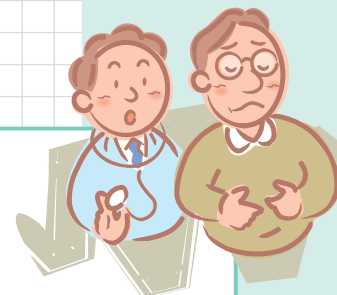


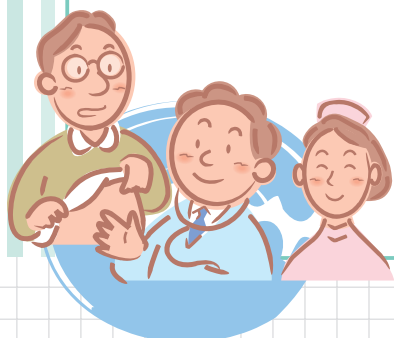
【炎症性腸疾患センター開設にあたって】

内科学講座(消化器内科) 教授 藤山佳秀



炎症性腸疾患 (IBD) は、厚生労働省が特定疾患 (難病) に指定している腸の炎症が慢性的に持続する病気で、潰瘍性大腸炎とクローン病が知られています。欧米に多い病気とされてきましたが、近年の日本における患者数の増加は世界的にも注目されています。日本全国で、認定されている患者さんだけでも潰瘍性大腸炎が約8万人、クローン病が約2万5千人にのぼっています。したがって、実際の患者さんの数はもっと多いと思われ、日本でも決してめずらしい病気ではなくなってきました。炎症性腸疾患は免疫の異常と関連して発症することはわかっていますが、根本的な病因はいまだ明らかになっていません。また、その治療方法も従来の抗炎症剤、ステロイド、栄養療法、免疫抑制剤などに加えて、新たに抗 TNF- α 抗体や血球成分除去療法などが導入され、治療法の選択、さらには相対的、絶対的手術適応の判断などについても高い専門的知識が要求されます。

滋賀県における炎症性腸疾患の拠点病院として、また、厚生労働省の研究班のメンバーとしてのこれまでの炎症性腸疾患の病因病態解明に根ざした新たな治療法開発に関する基礎研究の推進と、最新の治療法の提供を目指して、このたび消化器内科、消化器外科、栄養治療部の協力体制のもと「炎症性腸疾患センター」を開設しました。開設にあたり、マサチューセッツ総合病院 IBD センターのノウハウを踏まえて、入院を極力回避する中で、外来での最新治療の提供を目指し、当面、消化器内科の外来部門を主たる活動の場として、専門外来をスタートさせました。今後、さまざまな講演会やホームページを通して啓蒙活動も積極的に展開していく予定です。近畿圏における炎症性腸疾患診療の中心的存在として、さらに尽力していきます。



院内ビデオの放送開始

6A病棟 副看護師長 深田 章子



平成17年11月より、病棟の各病室に設置されている床頭台のテレビで、院内ビデオの放映を開始しました。放送内容は、「入院中の過ごし方」や「入退院の手続き」、「入院中の皆様へのお願い」などで、入院中の患者様にはいつでも無料でご覧いただけます。

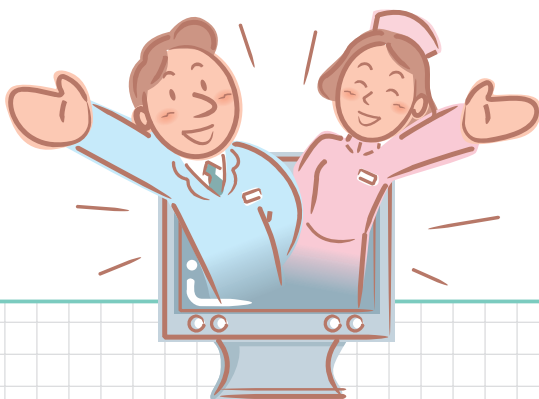
当院では、平成17年6月ごろより、看護部をはじめ、薬剤部、栄養治療部、事務担当者が一堂に会し、院内ビデオ作成の取り組みを始めました。参考資料の検討や、当院の紹介の仕方、言葉の使い方、映像、キャスティングなど細かなところまで打ち合わせを行い撮影にいたりしました。撮影当日には入院患者様にもご協力いただき、何とか無事撮影を終えることができました。作成の段階では、どのように映像やナレーション、テロップを使えば、見ていただく患者様にわかりやすく、意図するものが伝わるのか、という点が一番難しく苦労したところでもありました。

実際に院内ビデオの放送が始まり、患者様より様々な意見をいただきました。——「前に一度聞いたけど、すぐに忘れるから、テレビ放送だといつでも、何回でも見られるしいいわ。」「もっと早く教えて欲しい内容だった。」「病棟ごとに先生や看護師さんのプロフィールを流すともっと身近になると思う。」——厳しい意見やユニークなアイデアなど反響は様々です。

これからも、患者様にとって必要な情報を選別し提供していくため日々院内外のシステムや情報に目を向け、信頼と満足を患者様に提供していけるように今まで以上に取り組んでまいります。



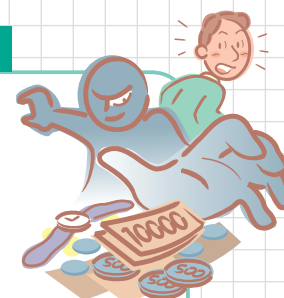
院内ビデオ



■ドロボウにご用心!

～1人1人の心掛けと病院の対策で犯罪をなくそう～

安全管理監 今中大視



最近の犯罪は、凶悪化、低年齢化、巧妙化する等、日常生活の中での不安感を高めています。ところが、発生件数は平成15年から全国的にも、全県的にも減少しています。ちなみに、滋賀県では平成14年中約3万2千件の刑法犯事件が発生しましたが16年中では約2万4千件足らずとなり、約8千3百件(26%)減少、更に今年も減少し、2万件を割る予測であります。

これは、窃盗事件を中心とした刑法犯発生件数が平成14年まで年々記録を更新しながら増加したため、多くの人が危機感を抱き「自らの安全は自らが守る」という意識が各地域で高まり、地域住民と行政が安全な町作りのための積極的な活動をしたことが、減少の大きな要因と考えられます。

要は、市民の防犯意識が高まれば、犯罪は抑止できる訳です。しかし、最近の犯罪は老人、女性など弱い人を狙う傾向が高まっています。また、病院内での盗難事件が多発の傾向にあり、当院でも被害が発生しております。

当院と致しましても、防犯カメラ設置やパトロール等の各種の防犯対策を進めていますが、なんといっても皆様方一人一人のご用心が不可欠です。

皆様におかれましては、特に盗難被害にあわないよう次のことをお守り願います。

- 貴重品(現金)は、出来るだけ病院に持ってこないでください。
- 現金は、セーフティボックスに入れて鍵を必ずかけてください。
- 鍵は必ず身に付けておいてください。

多くの方は盗難や交通事故について、「自分は例外」だと思いがちですが、事故や事件に例外はありません。「自分の安全は自分で守る」意識を高めることが極めて大切だと思います。

病院玄関前のバス乗り入れについて

患者様、御家族様等への便宜のため、本学の永年の懸案でありました附属病院玄関前へのバスの乗り入れに向けて歩み出しました。

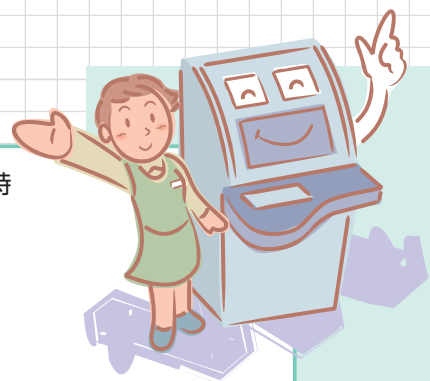
平成18年4月から乗り入れが可能となるよう交通申請をする一方、病院玄関前のバス通行が可能となるようにロータリーの整備を進める予定にしておりますので、御理解の程よろしく申し上げます。バスの乗り入れにつきましては、できるだけ一般車両と交差しないように考慮いたします。

また、乗り入れに併せて救急車搬送路の見直し及び身体障害者の方の駐車スペースも拡大する予定です。

なお、詳細につきましては、次回のニュースで報告する予定です。

再来受付機をご利用ください

外来係長 山崎 健



平成17年9月1日から再来受付機のご利用可能時間が早くなりました。8時30分の受付開始時間の混雑時にも早く受付ができます。操作方法は簡単です。初めてご利用される方はお近くの病院スタッフまでお気軽にお尋ねください。

- ご利用時間 午前8時30分～午前11時00分
- 設置場所 病院1階ロビー正面玄関入って左側
- 保険証等は診療等が全て終了後に **⑤** 料金計算窓口で確認させていただきます。
- 下記の場合、再来受付機はご利用いただけません。 **③** 再来窓口で受付を行って下さい。

- ・初めての診療料を受診する場合
- ・氏名、住所、保険証等に変更があった場合
- ・診察券をお忘れになった場合
- ・診察を受けずに検査、レントゲン、リハビリテーション等に行かれる場合
- ・11時以降の予約の場合
- ・休診日、予約のみの診療日の場合



再来受付機がご利用いただけない診療科			
月曜日	消化器外科	歯科口腔外科	
火曜日	心臓血管外科	呼吸器外科	麻酔科
水曜日	消化器外科	乳腺・一般外科	
木曜日	心臓血管外科	呼吸器外科	麻酔科
金曜日	歯科口腔外科		

平成17年度 救急医療功労者知事表彰受賞



平成17年9月9日(金)(救急の日)、滋賀医科大学医学部附属病院は、平成2年から救急告示病院として全科当直体制のもとに救急専属医による救急当直制を開始して滋賀県全域から救急患者を受け入れていること、また毎年救急救命士の病院実習受入病院として湖南圏域の消防本部の救急救命士を積極的に受け入れていることなどの救急医療への貢献が評価され、滋賀県知事から表彰を受けました。

(参考) 滋賀医科大学医学部附属病院における平成16年度の救急患者数は13,064人、救急車搬送数は2,769台となり、過去最高となっています。

滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

●理念を実現するための基本方針

- 患者さま本位の医療を実践します
- 信頼・安心・満足を与える病院を目指します
- あたたかい心で最先端の医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します

滋賀医大病院ニュース第9号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL: 077(548)2012(企画調整室)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。